



貸借対照表で分かる 特徴や変化から このように声をかけよう

1 現預金

現預金が減少していますが何か大きな取組みをされたのですか？



現 預金の減少は手元流動性の悪化を意味する。企業財務としてはマイナスイメージを連想しがちだが、プラスの企業活動の結果ということもある

ので、本アプローチトークで確認しよう。

例えば、設備投資を手元資金で行っている場合には、当然に現預金は減少するが、設備投資に踏み切るからには先行き多数の受注を見込んでいるはずである。日常的に工場に顔を出していれば設備投資の有無に気づくことができるし、それ以外にも毎月試算表の提出を受けていれば、貸借対照表の固定資産勘定が増加しているはずなので、どのような設備を購入したのかを確認しよう。

事業拡大に伴い発生する課題や資金需要に対応

設備投資以外にも、M&Aで事業分野の拡大を図ったため、現預金が減少していることが考えられる。事業分野の拡大は設備投資のように企業を外形的に観察しているだけでは把握できないため、経営者からのヒアリングがポイントになる。

そのほかにも様々な要因が考えられるが、いずれにしても企業が現預金を使えば、資産勘定のどこかが変化するので、試算表を入手するたびに勘定科目の変化に注目する必要がある。

それが設備投資や事業分野の拡大など企業活動が活発化するものであれば、売上が増加する

こんなトークを展開しよう

ので運転資金等が必要になってくる。企業活動の変化を他行庫に先駆けて察知して、経営課題や資金需要の掘起しにつなげていこう。

担当者…貸借対照表を拝見しますと、今期、現預金が減りましたね。何か投資活動をされましたか？

社長…M&Aを行ってね。知り合いの企業の事業分野の一部を買収したんだ

担当者…事業の拡大を図られたのですね。となると、その分、運転資金等が必要になってくるのではないですか

社長…鋭いね。でも、そのあたりは手元資金で大丈夫かな。それよりも課題となるのは既存の事業と買収した事業の融和かな

担当者…M&Aでよく聞かれる課題ですね。よろしければM&Aを行った他社さんの成功事例をご紹介させてください

2 売掛金

売掛金が増えています
商品の販売が
好調なのでしょ
うか？



売 上高に変動がない場合や、逆に売上高が減少しているにもかかわらず、受取手形や売掛金などの売上債権が不

自然に増加している場合には、不良債権の存在や、架空債権計上による売上の水増し（粉飾決算）を疑わなければならない。

一方、売上高とほぼ同じペースで売上債権が増加しているのであれば、正常な企業活動が営まれていないと解釈できる。

売上高が増加すると、それに伴って仕入代金の支払いも増加する。売上債権の回収サイトよりも仕入債務の支払サイトのほうが短い企業においては、売掛金等の回収に先行して仕入代金

売上債権の適切な管理を
アドバイスする余地も

の支払いが発生するほか、人件費や輸送費、水道光熱費などの諸経費の支払いも増加するため、運転資金が必要になる。

このような資金需要を増加運転資金という。増加運転資金の発生は企業活動が活発化していることの現れなので、絶好の融資機会としてポジティブに評価する必要がある。

一方で、売上債権が増えているということは、回収するまではその分の利益が確定しないということを意味する。そのため売上債権の適切な管理も求めら

れる。

特に売掛金の残高が多額に計上されている売掛先があれば、取引限度枠の設定など適切な与信リスク管理が必要になる。取引金融機関として、リスク管理手法等をアドバイスしよう。

こんなトークを展開しよう

担当者…売掛金が増えていますね、商品の販売が好調なのでしょ

うか？

社長…おかげさまで、引き合いが増えていますね

担当者…ただ、売上の増加率よりも売掛金の増加率のほうが高いですね。売掛金のサイトが延びているのではないですか

POINT

- 売掛金の増加に合わせて売上高も増えているかまず確認
- 売掛先が偏っているような場合はリスク管理も必要に

社長…よく見ているね。発注が増えたものの、売上債権の回収条件は悪化しているね。資金繰りという観点では少しタイトになりつつあるかな

担当者…もちろん融資による支援も考えられますが、その前に売上債権や仕入債務の回転期間を確認してみませんか。業界平均に比べて悪いようでしたら、取引条件の見直しも必要かと思

います。すぐに情報をお持ちいたしますね